

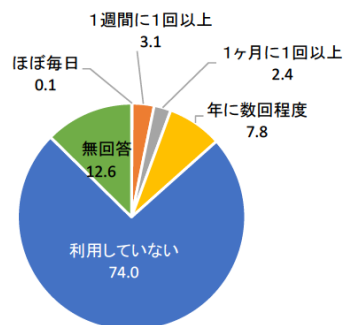
市民総合体育館

バレーボールや卓球等を行える競技場、会議室等がある。
各種スポーツ大会やイベントが行われる。

利用用途別分類＝教育文化施設（スポーツ施設）



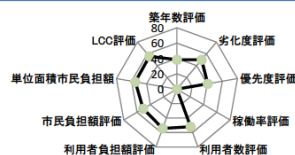
【スポーツ施設】



＜意向調査による利用状況＞

施設名：市民総合体育館

1次評価



健全度評価の偏差値		44.2（平均未満）	
活用度評価・財務評価の偏差値		51.4（平均以上）	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	37	年	38.4
②劣化度点数評価	—	点	50.0
評価値	—	—	44.2
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	25	—	40.7
④稼働率評価	—	%	57.2
⑤利用者数評価	128.7	%	51.9
評価値	—	—	46.3
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	76	円/人	54.3
⑦市民負担額評価	92	円/人	50.8
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	2,162	円	55.1
⑨LCC評価	33,300	円/㎡	55.8
評価値	—	—	54.0

施設名：市民総合体育館

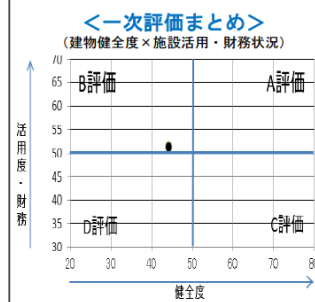


2次評価

		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか	ウ、即している
		③利用実態が設置目的に即しているか	ウ、即している
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	ア、運営主体である必要性は低い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か	ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入）	—
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	イ、増加は見込まれない
		⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか	ウ、広域（主に市域、市域外を対象）
	(2) 互換性	⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	ア、存在する
		⑩民間化が可能な施設か	ア、可能
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	イ、検討の余地あり
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	ウ、不可能

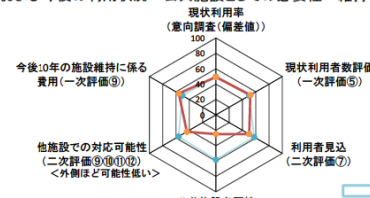
施設名：市民総合体育館

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

(現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用)



3次評価

建物の評価	現状維持	理由	建築から37年を経過し、施設の老朽化も進んでおり、1次評価の健全度評価においても平均未満となっている。過去に改修工事等を実施しており、緊急的に大規模な改修の必要はなく、耐震性も問題はない。 ※H21年度・H24年度屋上防水改修工事・H17年度換気扇設備改修工事・H12年度駐車場舗装改修工事・ガスヒートポンプ改修工事・H11年度内外装改修工事・屋上防水改修工事・電気設備改修工事、空調設備改修工事・給湯設備改修工事
	今後の方向性	理由	今後も必要となる修繕等を行いつつ現状を維持していく必要がある。
機能の評価	再編(改善)	理由	1次評価の活用度評価については平均未満となっているが、財務評価については平均以上である。前年度の利用者数については、過去5年間の利用者数を上回っているが、競技場や第二競技場は高い利用率であるのに対し、会議室の利用率はかなり低い。利用者増加に向けた取り組みなど再編(改善)が必要である。 ※H22年度140,530人、H23年度138,425人、H24年度153,024人、H25年度132,823人、H26年度145,973人、過去5年平均 142,155人
	今後の方向性	理由	利用者の増加を図る取り組みを引き続き行うと共に、特に稼働率の低い会議室や役員室の利用者増加に向けた取り組みを検討する。

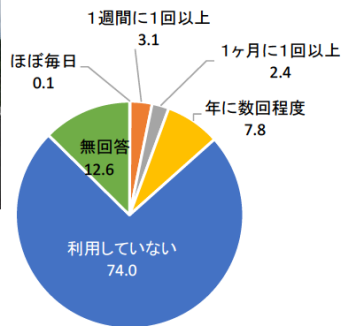
下里運動公園 (管理棟・コミュニティルーム)

利用用途別分類=教育文化施設 (スポーツ施設)



平成28年6月にオープン。大人用サッカーコート公式試合サイズ1面を確保できるメインコート(夜間使用可)のほか、芝生広場もある運動公園。コミュニティルームの貸出しも行っている。

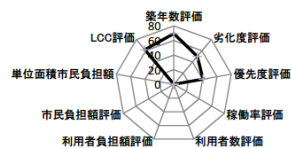
【スポーツ施設】



<意向調査による利用状況>

施設名:下里運動公園(管理棟・コミュニティルーム)

1次評価



健全度評価の偏差値				53.0（平均以上）				
活用度評価・財務評価の偏差値				50.8（平均以上）				
健全度 評価	評価指標	平成26年度		偏差値		平均		備 考
	①築年数評価	-1	年	69.5	21.1	年	築年数を偏差値化	
	②劣化度数点評価		点	50.0		点	実態調査に基づく劣化状況の点数を偏差値化	
	評価値			59.8				
活用度 評価	評価指標	平成26年度		偏差値		平均		
	③優先度評価	25	—	40.7	40.4	—	公共建築物としての必要性や公益性を勘案し、マネジメントの優先度を偏差値化	
	④稼働率評価	—	%	—	57.2	%	利用件数÷可能コマ数を偏差値化	
	⑤利用者数評価	—	%	—	90.2	%	利用者数÷全市民人口を偏差値化	
	評価値			40.7				
財務 評価	評価指標	平成26年度		偏差値		平均		
	⑥利用者負担額評価	—	円/人	—	281	円/人	利用者1人当たりの利用料を偏差値化	
	⑦市民負担額評価	—	円/人	—	103	円/人	各施設の年間光熱水費÷全市民人口を偏差値化	
	⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	—	円	—	7,041	円	各施設の年間光熱水費÷各施設延床面積を偏差値化	
	⑨LCC評価	2,600	円/㎡	61.9	62,100	円/㎡	今後10年間の維持保全・更新費÷各施設延床面積を偏差値化	
	評価値			61.9				

施設名:下里運動公園(管理棟・コミュニティルーム)

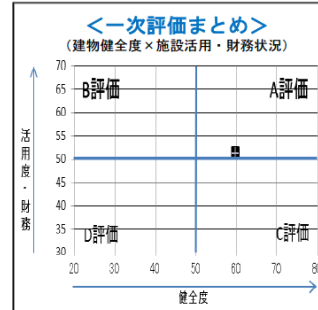


2次評価

		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか	ウ、即している
		③利用実態が設置目的に即しているか	ウ、即している
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	ア、運営主体である必要性は低い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か	ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか(幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入)	—
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	ア、減少が見込まれる
	(2) 互換性	⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか	ウ、広域(主に市域、市域外を対象)
		⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	ウ、存在しない
		⑩民営化が可能な施設か	ア、可能
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	イ、検討の余地あり
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	ウ、不可能

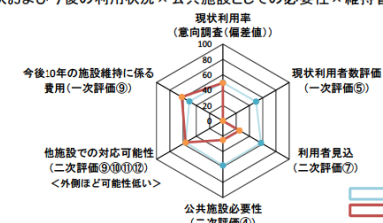
施設名:下里運動公園(管理棟・コミュニティルーム)

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

(現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用)



3次評価

建物の評価	現状維持	理由	建設中の施設であり、1次評価の健全度評価については平均以上とする。当面は必要に応じた修繕などを行い現状を維持する必要がある。
		今後の方向性	今後5年程度は既存の施設を必要な修繕等を行いながら現状のまま維持する。
機能の評価	再編(改善)	理由	建設中の施設であり1次評価については今後の経費などにより算出する。少子高齢化に伴い、利用者の減少傾向が続くことが予想されることから、効率的な施設運営が必要となる。
		今後の方向性	利用者の増加を図るための事業内容、来場者の状況、地域性などを十分に考慮した事業計画を検討する。また、総合体育館などの他の施設を含む民営化の検討を実施する。

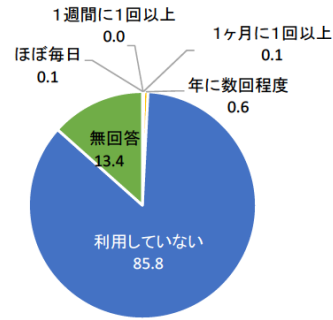
三日市幼稚園

元三日市小学校の運動場跡を利用して昭和29年に誕生した幼稚園。1年保育（5歳児、定員35）、2年保育（4歳児～定員30）を行っている。

利用用途別分類＝教育文化施設（学校・幼稚園）

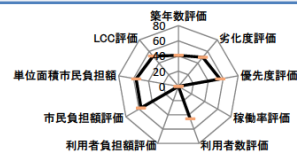


【三日市幼稚園】



＜意向調査による利用状況＞

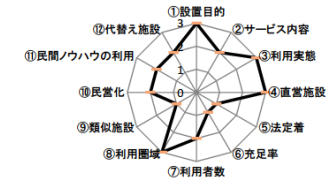
施設名：三日市幼稚園



1次評価

健全度評価の偏差値		45.4（平均未満）	
活用度評価・財務評価の偏差値		53.4（平均以上）	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	21～36 年	40.7	21.1 年
②劣化度点数評価	点	50.0	点
評価値		45.4	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	50	55.8	40.4
④稼働率評価	—	—	57.2
⑤利用者数評価	0.046	45.5	90.2
評価値		50.7	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	— 円/人	—	281 円/人
⑦市民負担額評価	7 円/人	57.0	103 円/人
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	772 円	56.6	7,041 円
⑨LCC評価	51,900 円/㎡	52.0	62,100 円/㎡
評価値		55.2	

施設名：三日市幼稚園

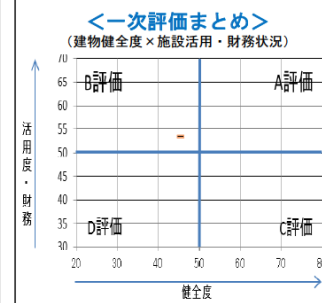


2次評価

	項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか イ、あまり即していない
		③利用実態が設置目的に即しているか ウ、即している
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か ウ、運営主体である必要性は高い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入） ア、低い（70%未満）
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか イ、増加は見込まれない
	(2) 互換性	⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか ウ、広域（主に市域、市域外を対象）
		⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む ア、存在する
		⑩民営化が可能な施設か イ、検討の余地あり
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か イ、検討の余地あり
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか イ、検討の余地あり

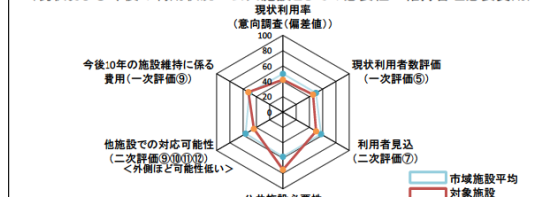
施設名：三日市幼稚園

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

（現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用）



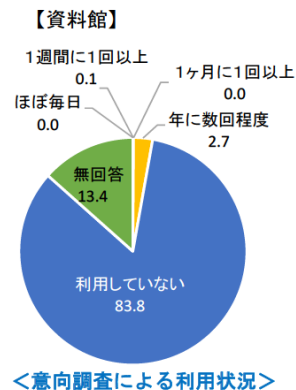
3次評価

建物の評価	現状維持	理由	建築から38年を経過し、1次評価の健全度評価においても平均未満となっている。耐震性に問題はないが、長らく改修工事を実施していないため、内外装や設備は老朽化が進んでいる。本施設を維持していく場合は改修工事を検討する必要があるが、今後の幼稚園のあり方についての方針が決まるまでは、必要な修繕等を行いながら現状を維持する必要がある。
		今後の方向性	当面は必要な修繕等を行いながら現状を維持するが、市立幼稚園のあり方を検討し、維持していくのであれば建築や設備の更新による強化が必要となる。
機能の評価	再編（改善）	理由	1次評価において活用度、財務評価共に平均以上である。支援学級入学者が増加する現状を踏まえると、幼児教育を推進する中で市立幼稚園の存在意義は大きい。一方で、預り保育の実施など、全国的に求められているサービスが実施できておらず今後のあり方について検討する必要がある。
		今後の方向性	当幼稚園については、現状を維持するか、認定こども園に移行するか、廃園とすることなど、公立・私立を含めた幼稚園の総合的なあり方を早急に検討し、この方針に基づき取り組みを推進する必要がある。

滝畑ふるさと文化財の森センター (資料館)

滝畑ダムの建設により水没することとなった滝畑地区にあった多くの文化財を保全展示している。妻入横割型を復元した民家様や展示室等がある。

利用用途別分類＝教育文化施設（その他）



施設名：滝畑ふるさと文化財の森センター（資料館）



2次評価

		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか	ウ、即している
		③利用実態が設置目的に即しているか	ウ、即している
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	ウ、運営主体である必要性は高い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か	ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入）	—
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	イ、増加は見込まれない
	(2) 互換性	⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか	ウ、広域（主に市域、市域外を対象）
		⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	ウ、存在しない
		⑩民営化が可能な施設か	ウ、不可能
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	ア、可能
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	ウ、不可能

施設名：滝畑ふるさと文化財の森センター（資料館）

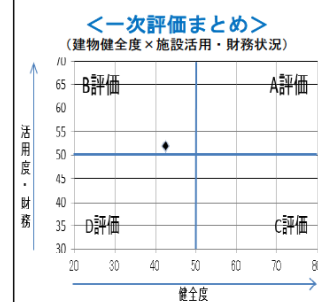


1次評価

健全度評価の偏差値				42.5（平均未満）			
活用度評価・財務評価の偏差値				51.9（平均以上）			
健全度 評価	評価指標	平成26年度		偏差値	平均	備 考	
	①築年数評価	32～35	年	35.0	21.1	年	築年数を偏差値化
	②劣化度点数評価		点	50.0		点	実態調査に基づく劣化状況の点数を偏差値化
	評価値			42.5			
活用度 評価	評価指標	平成26年度		偏差値	平均		
	③優先度評価	25	—	40.7	40.4	—	公共建築物としての必要性や公益性を勘案し、マネジメントの優先度を偏差値化
	④稼働率評価	—	%	—	57.2	%	利用件数÷可能コマ数を偏差値化
	⑤利用者数評価	5	%	45.8	90.2	%	利用者数÷全市民人口を偏差値化
財務 評価	評価値			43.3			
	評価指標	平成26年度		偏差値	平均		
	⑥利用者負担額評価	—	円/人	—	281	円/人	利用者1人当たりの利用料を偏差値化
	⑦市民負担額評価	2	円/人	57.4	103	円/人	各施設の年間光熱水費÷全市民人口を偏差値化
⑧建物1㎡あたりの 市民負担額評価	708	円	56.6	7,041	円	各施設の年間光熱水費÷各施設延床面積を偏差値化	
	⑨LCC評価	16,500	円/㎡	59.1	62,100	円/㎡	今後10年間の維持保全・更新費÷各施設延床面積を偏差値化
	評価値			57.7			

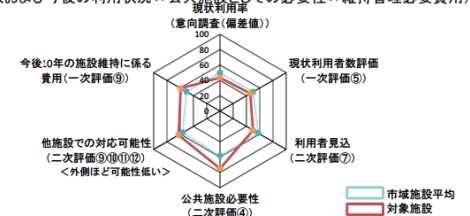
施設名：滝畑ふるさと文化財の森センター（資料館）

1次評価・2次評価まとめ



<公共施設としての利用機能発揮可能性>

(現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用)



3次評価

建物の評価	現状維持	理由	建築から35年を経過し、1次評価の健全度評価については平均未満となっている。平成18年度に外装、屋根改修工事を実施しており、早急に大規模な改修工事の必要はないが、内装や設備等の部分的な修繕等は必要である。
		今後の方向性	逐次必要に応じた修繕等を行い施設の維持管理を実施する。
機能の評価	再編（改善）	理由	1次評価の活用度評価は平均未満、財務評価は平均以上であるが、近年、利用者が減少傾向にあるため、利用者の増加に向けた取組みが必要である。
		今後の方向性	利用者の増加を図るため、展示の目的や事業の内容、来場者の状況、地域性などを十分に考慮し、展示物等を定期的に更新、また、ふるさと歴史学習館との連携を図るなど、社会教育の振興を図るために効率的な施設運営を継続して行う。

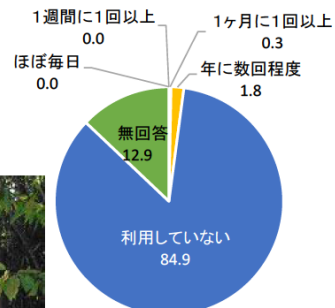
滝畑ふるさと文化財の森センター (研修宿泊施設)

150名程度が宿泊できる宿泊室の他、研修室、食堂、浴室棟、野外炊事場、体育館、プールがある。

利用用途別分類＝教育文化施設（その他）



【滝畑ふるさと文化財の森センター】



＜意向調査による利用状況＞

施設名：滝畑ふるさと文化財の森センター（研修宿泊施設）

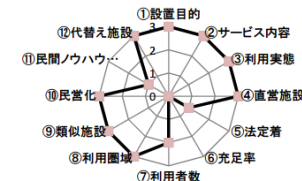
1次評価



健全度評価の偏差値		44.8 (平均未満)	
活用度評価・財務評価の偏差値		48.2 (平均未満)	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	22～42	39.6	21.1
②劣化度点評価		50.0	
評価値		44.8	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	25	40.7	40.4
④稼働率評価	—	—	57.2
⑤利用者数評価	7.8	45.9	90.2
評価値		43.3	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	831	38.5	281
⑦市民負担額評価	34	55.1	103
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	1,801	55.5	7,041
⑨LCC評価	45,900	53.2	62,100
評価値		50.6	

施設名：滝畑ふるさと文化財の森センター（研修宿泊施設）

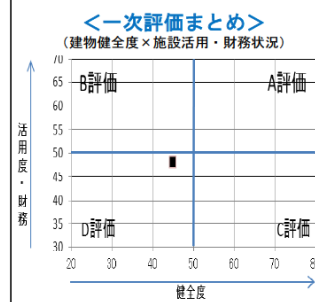
2次評価



	項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか ウ、即している
		③利用実態が設置目的に即しているか ウ、即している
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か ウ、運営主体である必要性は高い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入） —
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか イ、増加は見込まれない
	(2) 互換性	⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか ウ、広域（主に市域、市域外を対象）
		⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む ウ、存在しない
		⑩民営化が可能な施設か ウ、不可能
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か ア、可能
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか ウ、不可能

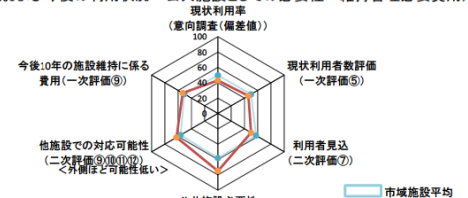
施設名：滝畑ふるさと文化財の森センター（研修宿泊施設）

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

（現状および今後の利用状況 × 公共施設としての必要性 × 維持管理必要費用）



3次評価

建物の評価	現状維持	理由	建築から22年を経過し、1次評価の健全度評価については平均未満となっている。過去に改修工事等を実施しており、緊急的に大規模な改修の必要はなく、耐震性も問題はない。 ※H22年度アリーナ照明改修工事・給湯設備改修工事・マキストープ設置工事、H21年度事務室EM改修工事、H10年度耐震工事及びプール塗装工事
	今後の方向性		最終の改修より10年近く経過しており、今後も必要となる修繕等を行いながら現状を維持していく必要がある。
機能の評価	再編（改善）	理由	1次評価の財務評価については平均以上となっているが、活用度評価については平均未満である。直近の4年間で利用者数が減少傾向にある。時期における利用者のむらの解消や、利用者増加に向けた取り組み、より効率的な運営を行うための検討が必要である。 ※利用者についてはH22年度9,389人、H23年度9,548人、H24年度9,028人、H25年度8,253人、H26年度6,844人（台風による影響が考えられる）と昨年度は17%の落ち込みとなっている。
	今後の方向性		今後は、開散期を含む利用者増加に向けた学習活動支援内容や施策の検討、また、開散期を考慮した職員やアルバイト職員の期間雇用等の検討を行い、現状よりもより効率的な施設運営を実施するための方針を決定する必要がある。

ふるさと歴史学習館 (くろまろ館)

利用用途別分類＝教育文化施設（その他）

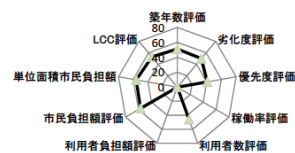
市の歴史や文化遺産を総合的に学習できる施設。
各種歴史資料が展示されており、勾玉づくりなどの
歴史体験もできる。



＜意向調査による利用状況＞
なし

施設名：ふるさと歴史学習館(くろまろ館)

1次評価



健全度評価の偏差値		50.6 (平均以上)	
活用度評価・財務評価の偏差値		50.5 (平均以上)	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	18 年	51.1	21.1 年
②劣化度点数評価	点	50.0	点
評価値		50.6	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	25	40.7	40.4
④稼働率評価	— %	—	57.2 %
⑤利用者数評価	5.7 %	45.8	90.2 %
評価値		43.3	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	— 円/人	—	281 円/人
⑦市民負担額評価	9 円/人	56.9	103 円/人
⑧建物1㎡あたりの 市民負担額評価	1,348 円	56.0	7,041 円
⑨LCC評価	46,900 円/㎡	53.0	62,100 円/㎡
評価値		55.3	

施設名：ふるさと歴史学習館(くろまろ館)

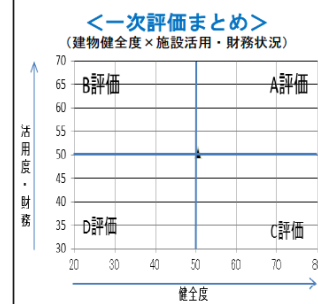


2次評価

	項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか ウ、即している
		③利用実態が設置目的に即しているか ウ、即している
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か ウ、運営主体である必要性は高い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入） —
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか ウ、増加が見込まれる
	(2) 互換性	⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか ウ、広域（主に市域、市域外を対象）
		⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む ウ、存在しない
		⑩民間化が可能な施設か ウ、不可能
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か ア、可能
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか ウ、不可能

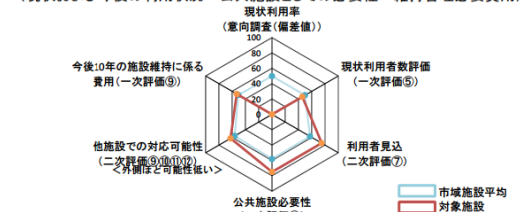
施設名：ふるさと歴史学習館(くろまろ館)

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

(現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用)



3次評価

建物の評価	現状維持	理由	建築から18年を経過しているが、1次評価の健全度評価については平均以上となっている。平成22年度に大規模改修を実施しており緊急に大規模な改修工事の必要はない。
		今後の方向性	逐次必要に応じた修繕等を行い、施設の維持管理を実施する。
機能の評価	再編(改善)	理由	1次評価の活用度評価は平均未満、財務評価は平均以上である。今後も利用者の増加に向けた取組みが必要である。
		今後の方向性	利用者の増加を図るため、展示の目的や事業の内容、来場者の状況などを十分に考慮し、今後も展示物等を定期的に更新するなど、市民の学習活動の支援及び文化遺産の保護に資することを推進する場を提供するために効率的な施設運営を継続して行う。

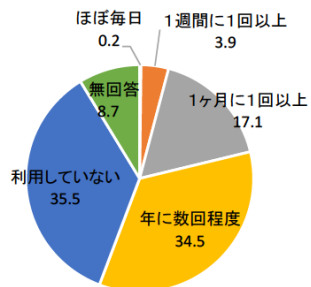
図書館（キックス内）

図書の出出しのほか、講座開催やおはなし会などのイベントを行っている。

利用用途別分類＝教育文化施設（図書館）



【図書館（キックス）】



＜意向調査による利用状況＞

施設名：図書館（キックス内）

1次評価



健全度評価の偏差値		54.0（平均以上）	
活用度評価・財務評価の偏差値		53.9（平均以上）	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	13	年 57.9	21.1
②劣化度点数評価		点 50.0	
評価値		54.0	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	25	40.7	40.4
④稼働率評価	—	% —	57.2
⑤利用者数評価	517.3	% 71.3	90.2
評価値		56.0	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	—	円/人 —	281
⑦市民負担額評価	106	円/人 49.8	103
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	1,537	円 55.8	7,041
⑨LCC評価	52,500	円/㎡ 51.9	62,100
評価値		52.5	

施設名：図書館（キックス内）

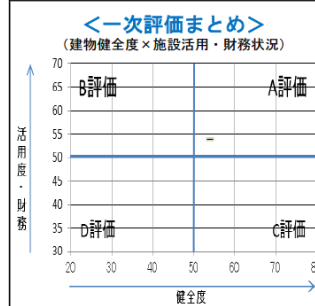


2次評価

	項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか ウ、低下していない
	(2) 必要性	②サービス内容が設置目的に即しているか ウ、即している ③利用実態が設置目的に即しているか ウ、即している ④市が自ら運営主体として関与すべき施設か ウ、運営主体である必要性は高い ⑤法律等により設置が義務付けされている施設か ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入） — ⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか ウ、増加が見込まれる
	(2) 互換性	⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか ウ、広域（主に市域、市域外を対象） ⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む ウ、存在しない
3. 代替性	民間参入の可能性	⑩民営化が可能な施設か ウ、不可能 ⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か ウ、不可能 ⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか ウ、不可能

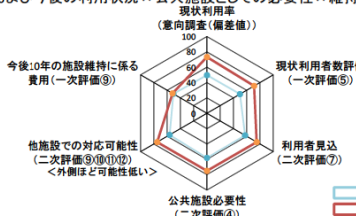
施設名：図書館（キックス内）

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

（現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用）

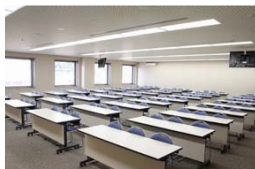


3次評価

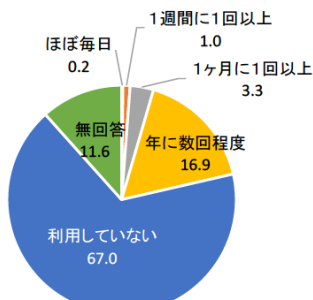
建物の評価	現状維持	理由	建築から13年を経過しているが、1次評価の健全度評価については平均以上であり、緊急的に大規模な改修を行う必要はない。建築後10年以上経過しているため、今後も必要な修繕等を行いながら現状を維持する必要がある。
	今後の方向性	理由	比較的に新しい施設であるが、一部建具周りからの漏水や外壁のシーリングの硬化などが見受けられるため、必要な修繕等を計画的に実施する。
機能の評価	再編（改善）	理由	1次評価において活用度評価及び財務評価共に平均以上である。市民の教育文化の発展及び生涯学習施設として、また地域の情報拠点として様々な情報をすべての住民に無料で提供する情報拠点施設として子どもからお年寄りまで、幅広い年代で利用されている。今後も市民サービスの向上を図り、利用者数を増やしていく取り組みを検討していく。
	今後の方向性	理由	平成26年3月策定の「河内長野市立図書館の事業実施等に関する基本的な運営方針」に基づき、新年度毎に事業計画を作成し積極的な図書館運営を行い、質の高い情報提供や読書環境の充実を図れるように、サービスの維持向上に努めるなど、利用者増加に向けた取り組みを検討していく。

市民交流センター（キックス内）

利用用途別分類＝その他公共建築物



【市民交流センター（キックス）】



<意向調査による利用状況>

国際交流、男女共同参画、青少年やコミュニティなどの自主活動を支援する施設。市民の文化・学習・交流活動における機会と場の提供として、イベントホール、会議室、工房等の貸し出しを行っている。

施設名：市民交流センター（キックス内）

2次評価

		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか	ウ、即している
		③利用実態が設置目的に即しているか	ウ、即している
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	ア、運営主体である必要性は低い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か	ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入）	—
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	ウ、増加が見込まれる
	(2) 互換性	⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか	ウ、広域（主に市域、市域外を対象）
		⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	ウ、存在しない
		⑩民営化が可能な施設か	イ、検討の余地あり
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	イ、検討の余地あり
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	ウ、不可能



施設名：市民交流センター（キックス内）

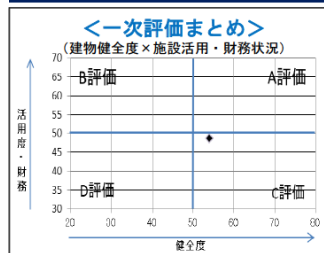
1次評価



健全度評価の偏差値		54.0（平均以上）	
活用度評価・財務評価の偏差値		48.7（平均以上）	
健全度評価	評価指標	平成26年度	偏差値
	①築年数評価	13	57.9
	②劣化度点数評価	点	50.0
評価値		54.0	
活用度評価	評価指標	平成26年度	偏差値
	③優先度評価	25	40.7
	④稼働率評価	51.8	46.3
	⑤利用者数評価	98.0	50.4
評価値		45.8	
財務評価	評価指標	平成26年度	偏差値
	⑥利用者負担額評価	74	54.3
	⑦市民負担額評価	207	42.4
	⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	3,046	54.2
	⑨LCC評価	49,700	52.5
評価値		50.9	

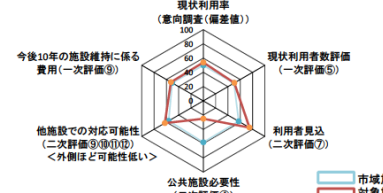
施設名：市民交流センター（キックス内）

1次評価・2次評価まとめ



<公共施設としての利用機能発揮可能性>

（現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用）



3次評価

建物の評価	現状維持	理由
機能の評価	再編（改善）	建築から13年を経過しているが、1次評価の健全度評価については平均以上であり、緊急的に大規模な改修を行う必要はない。建築後10年以上経過しているため、市民交流センター部分については今後も必要な修繕等を行いながら現状を維持する必要がある。
	再編（改善）	比較的に新しい施設であるが、一部建具周りからの漏水や外壁のシーリングの硬化などが見受けられるため、必要な修繕等を計画的に実施する。平成26年9月に策定した「公共施設等総合管理計画」に基づき、公民館やコミュニティセンターなど施設機能や利用内容の重複が多い施設については、稼働状況や採算性等を考慮し統廃合や複合化、管理・運営の見直しを検討する。

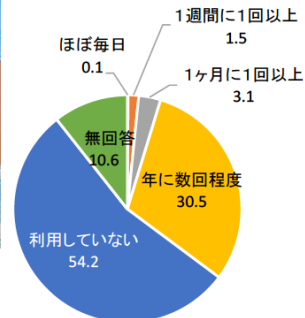
文化会館（ラプリーホール）

利用用途別分類＝教育文化施設（ホール）

文化の拠点施設。クラシック・コンサートも行える大・小ホールをはじめ、ギャラリーや会議室が展示会や会合などにも活用される。



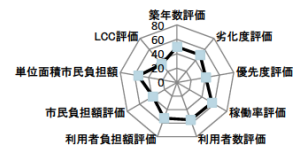
【文化会館（ラプリーホール）】



＜意向調査による利用状況＞

施設名：市営文化会館（ラプリーホール）

1次評価



健全度評価の偏差値		49.8（平均以上）	
活用度評価・財務評価の偏差値		47.3（平均未満）	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	23 年	49.6	21.1 年
②劣化度点数評価	点	50.0	点
評価値		49.8	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	25	40.7	40.4
④稼働率評価	66.1 %	56.1	57.2 %
⑤利用者数評価	193.6 %	55.1	90.2 %
評価値		50.6	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	150 円/人	52.7	281 円/人
⑦市民負担額評価	259 円/人	38.6	103 円/人
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	2,586 円	54.7	7,041 円
⑨LCC評価	146,200 円/㎡	33.1	62,100 円/㎡
評価値		44.8	

施設名：文化会館（ラプリーホール）

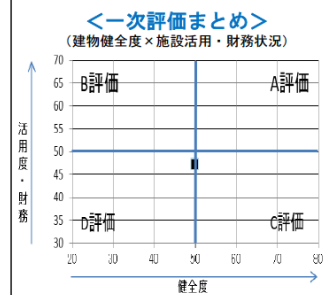


2次評価

	項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか ウ、即している
		③利用実績が設置目的に即しているか ウ、即している
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か ア、運営主体である必要性は低い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入） —
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか ウ、増加が見込まれる
	(2) 互換性	⑧施設の利用実績から利用圏域はどうか ウ、広域（主に市域、市域外を対象）
		⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む ウ、存在しない
		⑩民営化が可能な施設か イ、検討の余地あり
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か イ、検討の余地あり
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか ウ、不可能

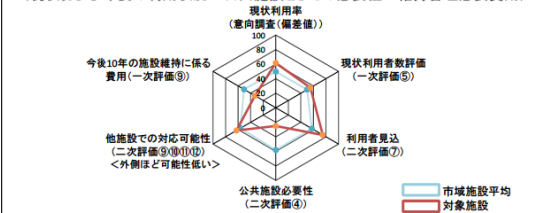
施設名：文化会館（ラプリーホール）

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

（現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用）



3次評価

建物の評価	現状維持	理由	重要から23年を経過し、1次評価の健全度評価については平均未満である。こまめに修繕等を実施しており、緊急的・大規模な修繕の必要はないが、今後とも必要な修繕等を行いつつ現状を維持する必要がある。（主な工事として平成17年度 搬入口防雪工事、平成21年度 防水改修工事、平成23年度 防水改修工事・レストラン空調工事・便所改修工事等）
		今後の方向性	今後とも必要となる修繕等を行いつつ現状を維持していく必要がある。平成26年9月に策定した「公共施設等総合管理計画」に基づき、公民館やコミュニティセンターなど施設機能や利用内容の重複が多い施設については、稼働状況や採算性等を考慮し統廃合や複合化、管理・運営の見直しを検討する。
機能の評価	再編（改善）	理由	1次評価において活用度評価は平均以上であるが、財務評価は平均未満である。事業及び公債数、利用者数については増加傾向である。指定管理者制度の導入により今後とも利用者増加に向けたPRの強化等を図り事業目的を果すとともに、施設の稼働状況や採算性等を十分に考慮しながら、利用料金の適正化に向けた再編（改善）を検討する必要がある。
		今後の方向性	貸し館業務においては、利用料金の適正化に向けた再編（改善）を検討する。また、平成26年9月に策定した「公共施設等総合管理計画」に基づき、公民館やコミュニティセンターなど施設機能や利用内容の重複が多い施設については、稼働状況や採算性等を考慮し統廃合や複合化、管理・運営の見直しを検討する。市の文化施策は、市民、団体との協働により市民文化を育み、発展させるものであり、そのためには、市民、団体との信頼関係が不可欠である。指定管理者制度の導入により、今後とも、市文化連盟やボランティア団体等との文化事業の協働、地元若手アーティストの育成、教室運営事業を行うなど、地域に根ざした、市民と密着した地域文化の振興を図りながら、更なる会館の効率的・効果的な管理運営を行う。また、地域住民に広く広めるためのアウトリーチ活動を積極的に展開する。

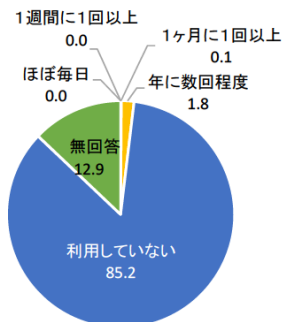
林業総合センター（木根館）

河内材を用いた木工教室、人と森のかかわりや林業技術、林産物やクラフトグッズを販売している。

利用用途別分類＝その他公共建築物



【林業総合センター（木根館）】



＜意向調査による利用状況＞

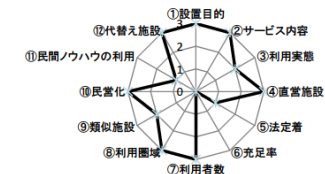
施設名：林業総合センター（木根館）

1次評価



健全度評価の偏差値		47.2（平均未満）	
活用度評価・財務評価の偏差値		48.1（平均未満）	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	25 年	44.3	21.1 年
②劣化度点評価	点	50.0	点
評価値		47.2	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	25	40.7	40.4
④稼働率評価	—	—	57.2
⑤利用者数評価	2.9	45.6	90.2
評価値		43.2	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	115 円/人	53.5	281 円/人
⑦市民負担額評価	9 円/人	56.9	103 円/人
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	1,885 円	55.4	7,041 円
⑨LOCC評価	130,100 円/㎡	36.4	62,100 円/㎡
評価値		50.6	

施設名：林業総合センター（木根館）

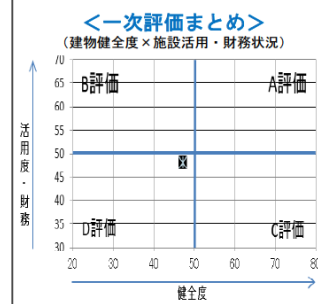


2次評価

		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか	ウ、即している
		③利用実態が設置目的に即しているか	イ、あまり即していない
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	ウ、運営主体である必要性は高い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か	ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入）	—
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	ウ、増加が見込まれる
		⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか	ウ、広域（主に市域、市域外を対象）
	(2) 互換性	⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	イ、存在するが利用圏域内にない
		⑩民営化が可能な施設か	ウ、不可能
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	ア、可能
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	ウ、不可能

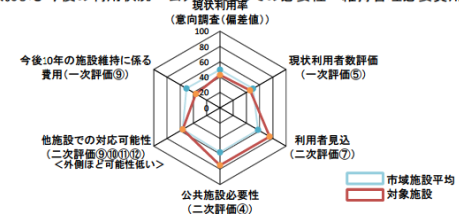
施設名：林業総合センター（木根館）

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

（現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用）



3次評価

建物の評価	現状維持	理由	建築から25年を経過しており、1次評価の健全度評価については平均未満となっている。耐震性に問題はなく早急に大規模な改修工事の必要はない。
		今後の方向性	当面は、逐次必要に応じた修繕等を行い施設の維持管理を実施する。
機能の評価	再編（改善）	理由	1次評価において活用度評価は平均未満であるが、財務評価は平均以上である。集客効果を期待できる、民間の能力やノウハウを活用した魅力的かつ効果的な施策の提案を実施するため指定管理者制度を導入する。
		今後の方向性	平成28年度からの5年間の指定管理者の選定を公募にて行い、民間の能力やノウハウを活用した魅力的かつ効果的な施策を提案してもらう。

改修・改善、維持費削減、料金改定

障がい者福祉センター (あかみね、あかみね分館)

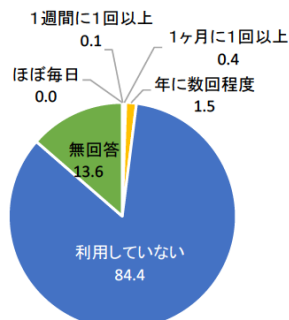
利用用途別分類＝福祉施設（保育所等）



【利用状況】	利用人数	利用回数	利用時間	利用料金	利用回数	利用時間	利用料金
利用人数	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1
利用回数	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1
利用時間	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1
利用料金	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1

障がい者からの相談に応じるとともに、訓練、講習をはじめ地域社会との自由な交流を通じ、障がい者の福祉の向上を図る施設。

【障がい者福祉施設】



<意向調査による利用状況>

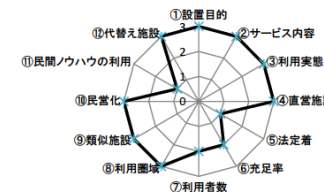
施設名:障がい者福祉センター(あかみね、あかみね分館)

1次評価



健全度評価の偏差値		48.6 (平均未満)	
活用度評価・財務評価の偏差値		49.4 (平均未満)	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	26	年	47.2
②劣化度点評価	点	50.0	点
評価値		48.6	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	50	—	55.8
④稼働率評価	—	%	57.2
⑤利用者数評価	17.4	%	46.4
評価値		51.1	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	—	円/人	281
⑦市民負担額評価	34	円/人	55.0
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	1,873	円	55.4
⑨LCC評価	139,400	円/㎡	34.5
評価値		48.3	

施設名:障がい者福祉センター(あかみね、あかみね分館)

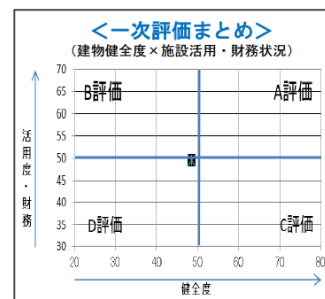


2次評価

項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	①設置目的の意義が低下していないか ウ、低下していない ②サービス内容が設置目的に即しているか ウ、即している ③利用実態が設置目的に即しているか ウ、即している
(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か ウ、運営主体である必要性は高い ⑤法律等により設置が義務付けされている施設か ア、義務付けられていない
2. 有効性	(1) 利用度 ⑥定員等に対する充足率はどうか(幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入) イ、さほど高くない(70%~89%) ⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか イ、増加は見込まれない
(2) 互換性	⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか ウ、広域(主に市域、市域外を対象) ⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む ウ、存在しない
3. 代替性	⑩民営化が可能な施設か ウ、不可能 ⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か ア、可能 ⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか ウ、不可能

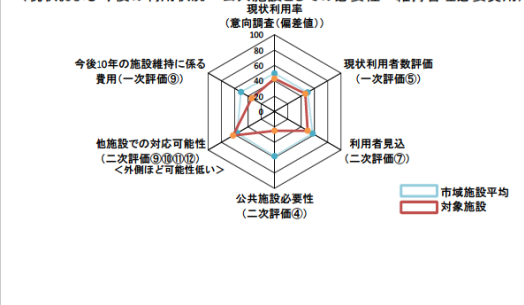
施設名:障がい者福祉センター あかみね

1次評価・2次評価まとめ



<公共施設としての利用機能発揮可能性>

(現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用)



3次評価

評価項目	理由
建物の評価	再編(改修・更新) 理由: 建築から26年を経過し、施設の老朽化も進んでおり、1次評価の健全度評価においても平均未満となっている。本館については内外装の改修を平成18年度に実施しているが、分館の内外装及び両館の設備については劣化や老朽化が進行している。 今後の方向性: 障がい者の利用が多いため施設の老朽化による事故には特に注意を払わなければならない。計画的な再編(改修・更新)が必要である。
機能の評価	再編(改善) 理由: 市内に居住する障害者に対して各種の相談に応じると共に、各種訓練、講習をはじめ地域社会との自由な交流を通じ障害者の福祉の向上を図ることを目的としており、障がい者の利用に対して施設の不便による事故等は特に避けなければならない。また設備の対応年数も過ぎ去り、今後策定予定の公共施設の再配置計画に基づき、逐次必要に応じた再編(改修・更新)を行う。 今後の方向性: 1次評価において活用度評価は平均以上となっているが、財務評価については平均未満である。市内に居住する障害者に対して各種の相談に応じると共に、各種訓練、講習をはじめ地域社会との自由な交流を通じ障害者の福祉の向上を図ることを目的としており、採算性のある事業ではないが、定員の残り2割の利用者増加に向けた施策の展開が必要である。 利用者増加に向けた施策の展開の検討及び、障がい福祉の向上のための施策展開が必要であり「障がい者福祉センターの基本的な運営方針」の策定を検討する。

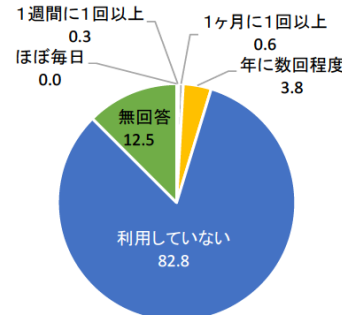
シルバー人材センター

利用用途別分類＝福利厚生施設

高齢者の経験や技能を生かす仕事を家庭・企業等から有償で引き受け、組織的に提供している。施設では一時預かり保育や手づくり雑貨の販売も行っている。



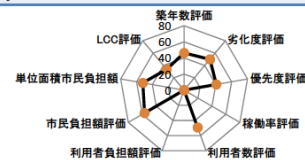
【シルバー人材センター】



＜意向調査による利用状況＞

施設名:シルバー人材センター

1次評価



健全度評価の偏差値		48.1 (平均未満)	
活用度評価・財務評価の偏差値		46.5 (平均未満)	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	23	46.2	21.1
②劣化度点数評価	50.0		
評価値	48.1		
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	25	40.7	40.4
④稼働率評価	—	—	57.2
⑤利用者数評価	76.6	49.3	90.2
評価値	45.0		
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	—	—	281
⑦市民負担額評価	11	56.7	103
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	5,001	52.1	7,041
⑨LCC評価	142,700	33.8	62,100
評価値	47.5		

施設名:シルバー人材センター

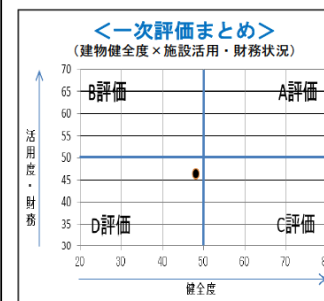


2次評価

		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	ウ、低下していない
	(2) 必要性	②サービス内容が設置目的に即しているか	ウ、即している
2. 有効性	(1) 利用度	③利用実績が設置目的に即しているか	ウ、即している
	(2) 互換性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	ウ、運営主体である必要性は高い
	(3) 代替性	⑤法律等により設置が義務付けられている施設か	イ、法定だが必置ではない
	(4) 持続性	⑥定員等に対する充足率はどうか (幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入)	—
3. 代替性	(1) 利用度	⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	ウ、増加が見込まれる
	(2) 互換性	⑧施設の利用実績から利用圏域はどうか	ウ、広域 (主に市域、市域外を対象)
	(3) 代替性	⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	ウ、存在しない
	(4) 持続性	⑩民営化が可能な施設か	ウ、不可能
4. 持続性	(1) 利用度	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	ウ、不可能
	(2) 互換性	⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	ア、可能

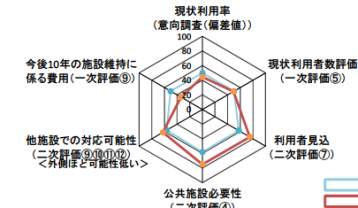
施設名:シルバー人材センター

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

(現状および今後の利用状況 × 公共施設としての必要性 × 維持管理必要費用)



3次評価

建物の評価	再編 (改修・更新)	理由	建築から23年を経過しており、1次評価の健全度評価については平均未満である。建物の耐震性について問題はないが、既に23年以上を経過した老朽化は進行しており、計画的な改修が必要である。
	再編 (改修・更新)	今後の方向性	定年退職後等における高齢者の労働能力を活かした臨時的・短期的な就業機会を提供し、高齢者の生きがいづくりと社会参加活動の促進を目的としている。高齢者の利用に対して施設の不便による事故等は特に避けなければならない。また施設の老朽化も進行しており、今後策定予定の公共施設の再配置計画に基づき、逐次必要に応じた再編 (改修・更新) を行う。
機能の評価	再編 (改善)	理由	1次評価において活用度評価及び財務評価共に平均未満である。シルバー人材センターは、営利を目的としない、公益法人ではあるが、本市の外郭団体比に比べ補助率が際立って低く、自立性が高いと言える。補助率については、平成23年4月に交わした覚書に基づき、平成23年度70%、平成24年度65%、平成25年度以降60%と、段階的に引き下げを行っている。
	再編 (改善)	今後の方向性	シルバー人材センターは公益社団法人であることから、利益追求の事業ではなく、公益目的事業を主たる事業として実施しつつ、今後は組織体制の整備や新規事業受託など、補助率を少しでも下げる取組みを行っていく。

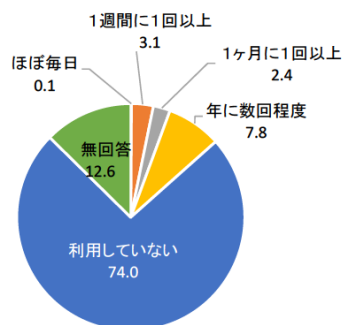
武道館

空手、なぎなた、太極拳などを行える施設。
旧長野町尋常高等小学校講堂（昭和2）で、国登録文化財
にも指定されている。

利用用途別分類＝教育文化施設（スポーツ施設）



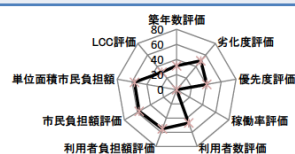
【スポーツ施設】



＜意向調査による利用状況＞

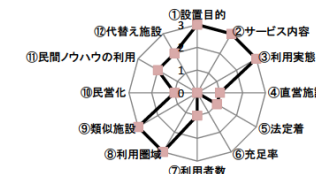
施設名: 武道館

1次評価



健全度評価の偏差値		40.9 (平均未満)	
活用度評価・財務評価の偏差値		47.9 (平均未満)	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	38	年	31.7
②劣化度点数評価		点	50.0
評価値		40.9	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	25	—	40.7
④稼働率評価	—	%	57.2
⑤利用者数評価	28.3	%	46.9
評価値		43.8	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	31	円/人	55.2
⑦市民負担額評価	3	円/人	57.3
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	598	円	56.7
⑨LCC評価	159,600	円/㎡	30.4
評価値		49.9	

施設名: 武道館

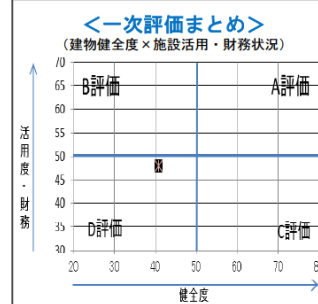


2次評価

		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか	ウ、即している
(2) 必要性		③利用実態が設置目的に即しているか	ウ、即している
		④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	ア、運営主体である必要性は低い
2. 有効性	(1) 利用度	⑤法律等により設置が義務付けされている施設か	ア、義務付けられていない
		⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入）	—
(2) 互換性		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	ア、減少が見込まれる
		⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか	ウ、広域（主に市域、市域外を対象）
3. 代替性		⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	ウ、存在しない
		⑩民間化が可能な施設か	ア、可能
民間参入の可能性		⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	イ、検討の余地あり
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	イ、検討の余地あり

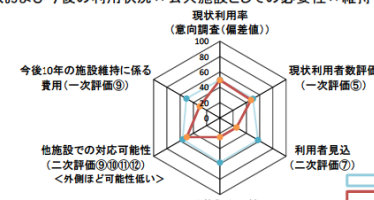
施設名: 武道館

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

（現状および今後の利用状況 × 公共施設としての必要性 × 維持管理必要費用）



3次評価

建物の評価	再編 (改修・更新)	理由	移築後から38年を経過し、1次評価の健全度評価は平均未満となっているが、平成20年度に内外装及び設備改修工事を実施しており、緊急的に大規模な改修工事を実施する必要はない。 しかし、旧耐震基準による木造建築物であり、耐震診断も実施されておらず耐震性能については確認されていない。 歴史的価値があり、平成18年12月に国登録文化財に登録されている。 ※H20年度 内外装改修工事及び屋根、換気扇、照明工事等、H8年度 雨どい改修工事
機能の評価	再編 (改善)	理由	日常的に様々なスポーツ活動や事業、選挙の投票事務等に利用されており、また文化的価値のある施設であるが、耐震性能は未知であり、早急に耐震診断を実施する必要がある。耐震性能が基準に満たない場合は耐震補強工事を実施する必要がある。
		今後の方向性	1次評価において活用度評価及び財務評価共に平均未満であるが、市民の体育及びスポーツの振興を図るとともに、青少年の健全育成並びに市民の体力向上に資するために設置されている。 利用者増加に向けた取り組みなど再編(改善)が必要である。
		今後の方向性	日常的に太極拳やダンス教室などに利用されているが、稼働率としては少ないため、利用者増加に向けた取り組みを検討する。

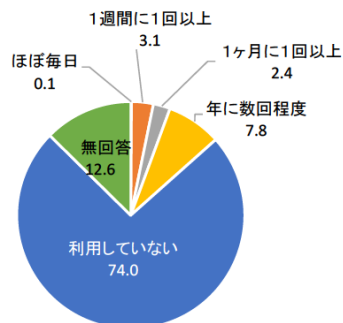
赤峰市民広場

多目的スポーツ広場、会議室、トリムコースのほか、炊事場を備えたキャンプ場がある。スポーツ大会やイベントが行われている。

利用用途別分類＝教育文化施設（スポーツ施設）



【スポーツ施設】



＜意向調査による利用状況＞

施設名：赤峰市民広場

1次評価

健全度評価の偏差値		46.5 (平均未満)	
活力度評価・財務評価の偏差値		50.9 (平均以上)	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	22～32 年	42.9	21.1
②劣化度点数評価	点	50.0	
評価値		46.5	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	25	40.7	40.4
④稼働率評価	—	—	57.2
⑤利用者数評価	120.7	51.5	90.2
評価値		46.1	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	29 円/人	55.3	281 円/人
⑦市民負担額評価	51 円/人	53.8	103 円/人
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	4,593 円	52.6	7,041 円
⑨LCC評価	53,600 円/㎡	51.7	62,100 円/㎡
評価値		53.4	



施設名：赤峰市民広場

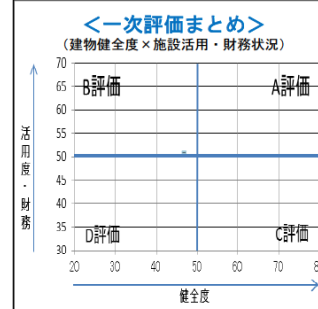


2次評価

		項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか	ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか	ウ、即している
(2) 必要性		③利用実態が設置目的に即しているか	ウ、即している
		④市が自ら運営主体として関与すべき施設か	ア、運営主体である必要性は低い
2. 有効性	(1) 利用度	⑤法律等により設置が義務付けされている施設か	ア、義務付けられていない
		⑥定員等に対する充足率はどうか（幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入）	—
(2) 互換性		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか	ア、減少が見込まれる
		⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか	ウ、広域（主に市域、市域外を対象）
3. 代替性		⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む	ア、存在する
		⑩民営化が可能な施設か	ア、可能
民間参入の可能性		⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	イ、検討の余地あり
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか	ウ、不可能

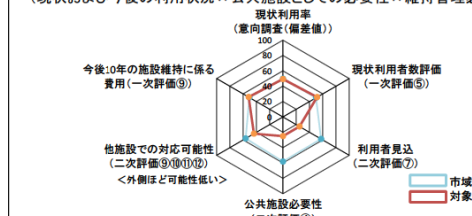
施設名：赤峰市民広場

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

（現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用）



3次評価

建物の評価	再編 (改修・更新)	理由	建築後22～32年が経過し、1次評価の健全度評価は平均未満となっている。建物の耐震性について問題はないが、内外装及び設備については劣化や老朽化が進行している。施設の老朽化による事故には特に注意を払わなければならない。計画的な再編(改修・更新)が必要である。青少年の健全育成並びに市民の体力向上に資する施設であり、施設の老朽化による事故には特に注意を払わなければならない。また設備の対応年数を過ぎ、今後策定予定の公共施設の再配置計画に基づき、逐次必要に応じた再編(改修・更新)を行う。
機能の評価	再編 (改善)	理由	1次評価において活力度評価は平均未満であり、財務評価は平均以上となっている。前年度の利用率については、過去5年間の利用率を下回っており、特に会議室や研修室の利用率はかなり低い。また、施設の光熱水費の負担については施設利用料金を上回っている。利用者の増加に向けた取り組みや利用料金の適正化に向けた再編(改善)が必要である。※利用者：H26年度 119,186人、過去5年平均 133,301人 水光熱費：H26年度 5,882,147円、利用料金：H26年度 4,350,425円
		今後の方向性	ソフトボールやサッカーなどの練習場として、またスポーツ大会や地域防災総合訓練などのイベントに利用されているが、稼働率としては低いため、利用者増加に向けた取り組みを検討する。また、光熱水費と施設利用料金とのバランスを勘案し、適正な利用料金の価格設定を検討する。

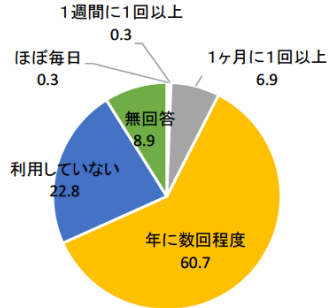
市庁舎

法律によって定められた事務のほか、独自の住民サービス等あらゆる行政事務を行う。戸籍や住民票の発行なども行われる。

利用用途別分類＝公用施設



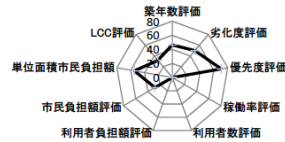
【市庁舎】



＜意向調査による利用状況＞

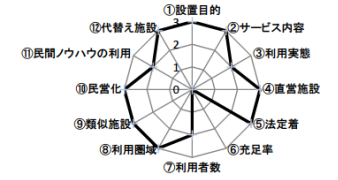
施設名: 市庁舎

1次評価



健全度評価の偏差値		48.2 (平均未満)	
活用度評価・財務評価の偏差値		46.5 (平均未満)	
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
①築年数評価	27	46.4	21.1
②劣化度点数評価	—	50.0	—
評価値	—	48.2	—
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
③優先度評価	75	70.8	40.4
④稼働率評価	—	—	57.2
⑤利用者数評価	—	—	90.2
評価値	—	70.8	—
評価指標	平成26年度	偏差値	平均
⑥利用者負担額評価	—	—	281
⑦市民負担額評価	396	28.5	103
⑧建物1㎡あたりの市民負担額評価	2,586	54.7	7,041
⑨LCC評価	151,800	32.0	62,100
評価値	—	38.4	—

施設名: 市庁舎

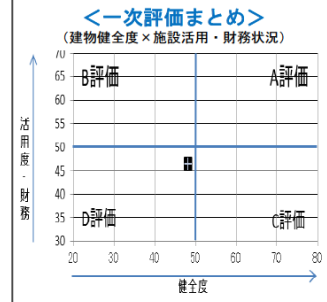


2次評価

	項目	評価施設所管課評価
1. 公共性	(1) 公益性	①設置目的の意義が低下していないか ウ、低下していない
		②サービス内容が設置目的に即しているか ウ、即している
		③利用実態が設置目的に即しているか イ、あまり即していない
	(2) 必要性	④市が自ら運営主体として関与すべき施設か ウ、運営主体である必要性は高い
		⑤法律等により設置が義務付けされている施設か ウ、義務付けられている
2. 有効性	(1) 利用度	⑥定員等に対する充足率はどうか(幼稚園、保育園、市営住宅等、該当施設のみ記入) —
		⑦今後の人口減少、少子高齢化を踏まえ、利用者数の見込みはどうか イ、増加は見込まれない
	(2) 互換性	⑧施設の利用実態から利用圏域はどうか ウ、広域(主に市域、市域外を対象)
		⑨利用圏域の中で、同種、同様の施設は存在するか ※国、府、市、民間等の施設を含む ウ、存在しない
		⑩民間化が可能な施設か ウ、不可能
3. 代替性	民間参入の可能性	⑪管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か イ、検討の余地あり
		⑫民間施設等を活用した利用補助等の新たな代替施策で対応できるか ウ、不可能

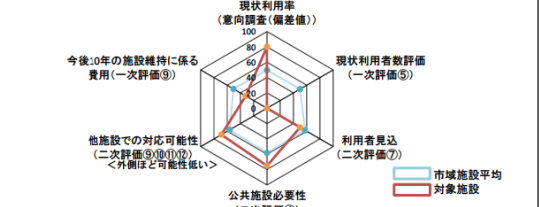
施設名: 市庁舎

1次評価・2次評価まとめ



＜公共施設としての利用機能発揮可能性＞

(現状および今後の利用状況×公共施設としての必要性×維持管理必要費用)



3次評価

建物の評価	再編 (改修・更新)	理由	建築から27年を経過し、施設の老朽化も進んでおり、1次評価の健全度評価においても平均未満となっている。内装に関しては大規模な改修は必要ないが、外装及び設備については劣化や老朽化が進行している。特に市民サービスや災害時の対策拠点となるため設備の老朽化による機能の低下と停止は絶対に避けなければならない。再編(改修・更新)が必要である。
		今後の方向性	市民サービスの拠点であり、また災害時の対策拠点であるため、今後策定予定の公共施設の再配置計画に基づき、逐次必要に応じた再編(改修・更新)を行う。
機能の評価	再編 (改善)	理由	1次評価において優先度評価は高いが、財務評価については平均未満である。また一部部署が分散されていることから事務効率の低下を招いており、本来の庁舎機能となるように段階的に再編が必要であるため再編(改善)とする。
		今後の方向性	第5次総合計画が策定され平成28年度から総合計画の示す将来都市像実現に向けて取組を進めていくにあたり、最良の行政サービスを提供できる行政運営を目指し、新たな課題や横断的な課題に対しても全庁一丸となつて的確に対応できる組織機構へと適宜再編を行う。